



☆私たちは、準絶滅危惧種の蝶「クロツバメシジミ」の生態調査・保護をしています!



活動の経緯

日本鱗翅(りんし)学会 会員の谷野純夫校長(19代)が、佐久間町中部の校長住宅前の石垣で、クロツバメシジミの幼虫が食草とする準絶滅危惧種の多肉植物「ツメレンゲ」を見つけたことをきっかけに、谷野純夫校長の提案で佐久間式ファーブル育成プロジェクト(現ファーブル・ラボ)が構築された。プロジェクト名は、地域と自然を愛したフランスの昆虫学者ファーブルにちなむ。

活動目標は、豊かな自然を大切に育て、環境保護の積極的な姿勢を身につけることである。クロツバメシジミの保護は、このプロジェクトの柱である。

校舎敷地内のプール南側、テニスコート東側などにツメレンゲのプランターを設置し、定期的に生態調査を実施している。

主な活動内容

1. ツメレンゲの株分け
2. クロツバメシジミの生態調査・記録
3. 保護活動の情報発信
4. グリーンカーテンの設置
5. プランターガーデニング
6. 絶滅危惧種センリゴマの保護
7. 植樹・樹木の管理
8. 蝶の標本作成(展翅)



☆保護活動は、今年度で14年目を迎えます

ファーブル委員会の実績

2013・2014年度と2年続いてイオン主催のeco-1グランプリ関東甲信越大会(二次審査)に出場その他においても、表彰多数

*クロツバメシジミとツメレンゲは、委員会の活動の成果が実り、2017年3月に「浜松市地域遺産認定文化財(天然記念物)」に登録されました。



今年度の新たな活動目標

- ・ツメレンゲの観察とクロツバメシジミの生態調査を継続的に行い、産卵や孵化、蛹化、羽化の条件を検証する。
- ・地域住民の方や佐高生に情報発信を行い、郷土の希少な昆虫・植物への理解を深めてもらう。

ファーブル委員会

静岡県立浜松湖北高校佐久間分校

TEL 053-965-0065

FAX 053-965-0355

URL

<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/sakuma-a-b/home.nsf>

E-mail

sakuma-b@edu.pref.shizuoka.jp

クロツバメシジミ

プロフィール

準絶滅危惧種で、関東以西の限られた山間地(※東日本亜種)のみに生息し、シジミチョウ科に属する。

幼虫は多肉植物のツメレンゲ(爪蓮華)を食べて成長する。

名前は、内側の翅(はね)の模様と、翅の表の色と突起の形に由来する。

大きさは、華麗なアゲハチョウとくらべ、かなり小さいが、とても趣がある美しい蝶である。



知られざる生態

4月上旬から12月上旬にかけて飛来し、5月から10月にかけては、ほぼ毎日観察ができる。幼虫は多肉植物のツメレンゲを食べて成長する。さなぎになるまでに、幼虫は**4回、脱皮**(四齢)を繰り返して羽化する。

産卵期は、年5回(平成26年度の調査結果)

生態で興味深いことは、幼虫が食欲旺盛で、葉肉の外で器用に排泄を行うことや黒アリとの共生関係(好蟻性)である。

冬は幼虫のまま越冬する。

学校周辺の生息調査や貴重な交尾や羽化の様態を記録に収めるなど、生態のベールの解明に挑んでいる。

保護区は、クロツバメシジミのライフサイクルが確立し、貴重な繁殖地となっている。

春



秋



★**ロゴマーク**は、53期生の村田麻衣子さんと55期生の下出桃子さんが作成

夏



冬

